

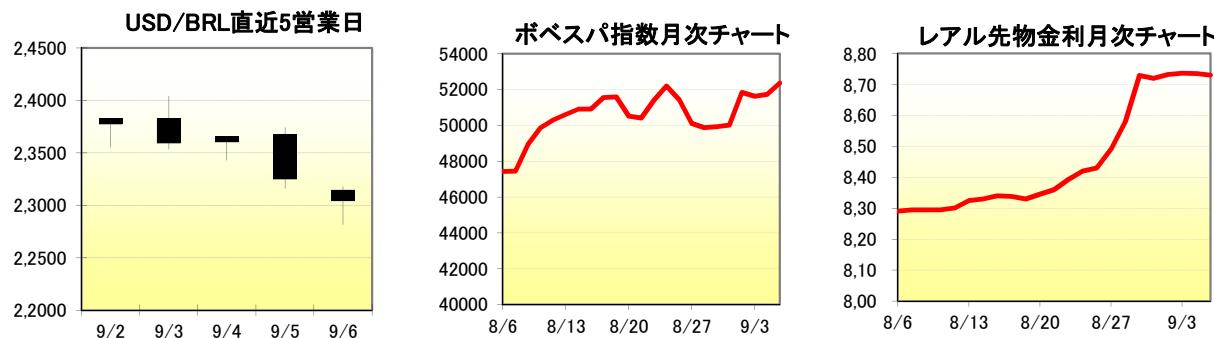
Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



1. マーケット・レート

			9月2日	9月3日	9月4日	9月5日	9月6日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2,3730	2,3600	2,3560	2,3240	2,3070	-0,0170
	USD/YEN	Spot	99,35	99,60	99,79	100,15	99,11	-1,0400
Swap	EUR/USD	Spot	1,3196	1,3173	1,3207	1,3121	1,3177	+0,0056
	BRL/YEN	Spot	41,80	42,22	42,28	43,08	42,96	-0,1200
Stock	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1,67	1,65	1,69	1,62	1,48	-0,1438
		1Year(p.a.)	2,00	1,96	1,97	1,91	1,82	-0,0975
Real Interest	6MTH(p.a.)	9,52	9,55	9,10	9,57	9,49	-0,0766	
	1Year(p.a.)	10,19	10,18	10,20	10,18	9,97	-0,2024	
Stock	Bovespa		51.835	51.626	51.716	52.352	53.749	+1.397,56
Bond	CDS Brazil 5y	206,86	208,25	208,33	207,33	197,35	-9,9770	
	Global 40	117,250	118,250	117,563	117,250	117,500	+0,2500	

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィcerまでお問い合わせ下さい。



2. 主要経済指標

3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回	なし
FGVインフレ率IGP-DI(前月比、8月)	0.29%	0.46%	0.14%	
IBGEインフレIPCA(前月比8月)	0.25%	0.24%	0.03%	
IBGEインフレ率IPCA(前年比8月)	6.10%	6.09%	6.27%	

4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場は U\$1=R\$2. 3820 で寄り付いた。
- 週初は米国市場が祝日で休場となり、レアル相場の流動性は極めて低い展開となった。レアルは寄り付き後、伯中銀による 2 度に渡るドル売り介入を受けて一気に 2.35 台半ばまで上昇した。しかしドル買い需要は強く、レアルは 2.37 台半ばまで急反落した。
- 翌 3 日には伯鉄工業生産が予想を下回る結果となったことを受けてレアルは一気に続落、週間安値となる U\$1=R\$2. 4040 を付けた。しかし直後に伯中銀がドル売り介入を実施するとレアルは 2.39 台半ばまで買い戻されたほか、大口の資金流入の噂からレアルはじりじりと 2.36 台まで続伸した。
- 週央には 8 月の中国サービス業指数が活動の拡大を示したことが好感され、ドルは対主要通貨で下落、レアルは 2.34 台前半まで買われた後、特段材料に乏しくレアルは 2.3450 から 2.3650 の間で上下する展開となった。
- 翌 5 日の朝方には伯 COPOM 議事録が発表され、レアル安の影響から中銀がインフレ率の上昇を懸念していることが示されたことから、次回の COPOM では 50bps の利上げの可能性が高いことが示唆された。レアルは伯中銀によるドル売り介入の実施に加えて、海外投資家による伯国債買いと思しき大口の資金流入の噂が聞かれるとレアルは一気に 2.31 台後半まで反発した。
- 週末にかけては米雇用統計が予想を下回る結果となったことからレアルは一気に続伸し、週間高値となる U\$1=R\$2. 2810 を付けた後、2.2850 から 2.3150 の間で行って来いの展開となり、結局 U\$1=R\$2. 3070 で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧説を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生じるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
9/9	FGV CPI IPC-S	Sep 8	0.25%	0.20%
9/9	CNI設備稼働率(季調済)	Jul	--	82.2%
9/9	Trade Balance Weekly	Sep 8	--	--
9/10	IGP-M Inflation 1st Preview	Sep	0.63%	0.13%
9/11	FIPE CPI-週次	Sep 7	0.25%	0.23%
9/12	小売売上高(前月比)	Jul	0.1%	0.5%
9/12	小売売上高(前年比)	Jul	2.9%	1.7%
9/12	広義小売売上高(前年比)	Jul	1.1%	-2.0%
9/13	経済活動(前月比)	Jul	-0.8%	1.13%
9/13	経済活動(前年比)	Jul	2.65%	2.35%

6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ : 2.30-2.40

今週はシリア情勢が一時懸念されリスク資産の売りが見られたが、リアル相場は伯中銀によるドル売り介入や大口の資金流入が見られたほか、米量的緩和の縮小時期を見極める上で鍵となる雇用統計が予想を下回る結果となったことから一ヶ月振りに 2.2810 まで回復した。注目されていた雇用統計が予想比低い結果となったことから FOMC の当局者は資産購入の縮小を開始できるほど景気が改善したかどうか議論しているが、市場では 18 日の米 FOMC では QE3 の縮小が決まるとの見方が優勢となっている。来週は重要な経済指標はあまり多く見られず、米 FOMC を控えて様子見モードの投資家が多いことが予想される。しかし、シリア情勢を懸念したリスク資産の売りの動きは引き続き見られる可能性があるため、ボラティリティーが高い状態が続くであろう。